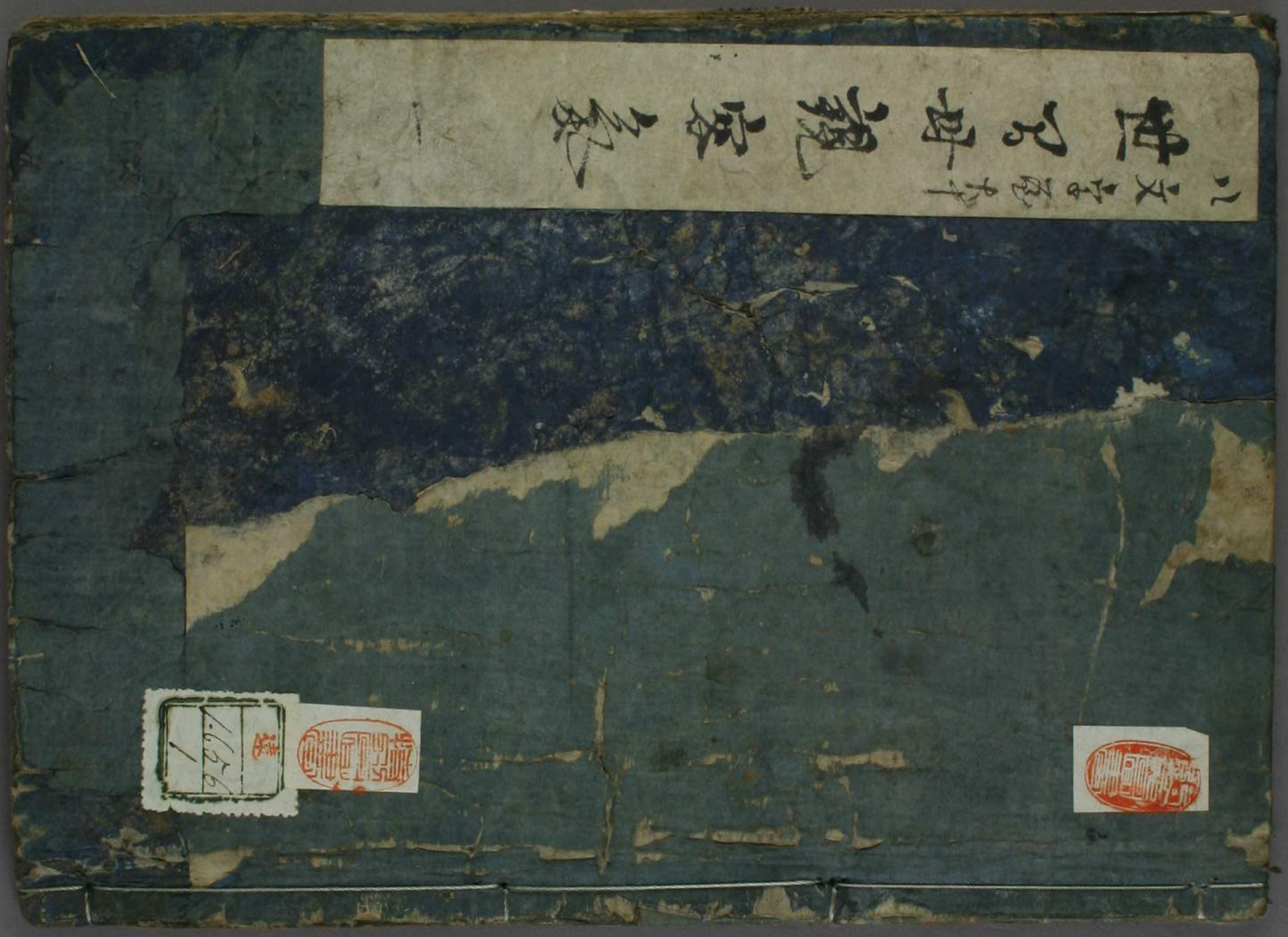

新板

黄門母親容氣

附り 高雄山紅葉の名所

十郎兵衛

大内殿

義経

俊寄

南北極嶺義

序

孔子曰、豆腐ハ二親ヲ養ヒ、豆腐ハ二親ヲ養ヒ、豆腐ハ二親ヲ養ヒ

家とあるは母にてそなはる
根ねをたづぬるに中こゝに指ていつるものあるべし
意ふかくせざるべからず仲の不ぐ[illegible]
相ともよろしく人情あらはしをまつべし

寛延元戊申初春

南圭主梅嶺翁著

[illegible]

世間母親容氣

巻之一

目録

第一　高貴の紅葉より新たなる歌を詠ず
男子女人を親とする相
婦人は家を箱のごとく
子ゆへに弁となるべき母あり

第二　按摩車酒くらりぬれる百姿
ひさぎぬりぬれまきを鍋を大食
くとりと酒とのりとぬれる世話
さぎんで折ぎいこたぐ紅藤

第三　母親いん住居ろろ女郎
かこひまぬれ禁酒ハ春ゆめ大食
ぬひ箸と爾ぬ浦ぬ塔ぬん
茶番ぬ品ぬ出ぬ仕掛ぬ塔

第一　高雄ぬ紅葉より新ぬ古敦女郎
人百万年寒霜ぬるのりぬ織ぬぬとしくぬとるる松の
楽人ぬ面ぬ紅葉とうぬ。ぬ教ぬ酒樽ぬさぬるも連
俳もちろ友どぬ。六人ぬとひわぬぬ。ぬ。この。ぬ紅
紅ぬ。ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬのぬぬぬぬ植ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ。
十脚ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ。
ぬど。ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
と蜀紅ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬ樹深ぬ水ぬ映ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
びぬぬ。九ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

にはかにけぶりくと紫だれて家にうづ〳〵して出でぬとこそ
とれどあぐめ入て顔徳さまうづて。ゆめと塊ず賞翫と
いふ名傷医おまり杉の〳〵杉うさに杉ぶ上〳〵りを入てうんるぶし。
杉の〳〵をまだ〳〵をまくまくして。唐詩とはどうん。
唐書ふみてあろう〳〵〳〵ひのびう坂のあうじ。猿張うう巖ふ
若ふりて。油雲を立とうづ。紅系ぶと極藤にはうう。色より上
八極人もく〳〵人絡ぶ〳〵〳〵多沖屋。幽ありにおやしや
三十四よりうんく〳〵美女。仲唱の指ふと射て。姫湖の弟桃
紫に杉さまれ。世界はとぬひの小袖。白淡のあくを袖に杉
うう。蜂川茅屋のこがいれうり絃。福香炉に名香とゆを。
ふ檀のう〳〵絃に水晶の軸〳〵うまを茅とうづうんぐ〳〵
とぬうへなぐ〳〵ゆうに江方はれ〳〵とのぐうぐうみあゆく

ゆく絃より千六七ある女童はれ紙にあはやうまうん行
ふていつく〳〵の酒をとうけ世づうぬていまてうさひゆ〳〵てい
黄泉ふもうぐうにうり。巫山の神女とふうう水をども
絃泉の姫ふあ〳〵ぶていそうあ法羅婦あんやとれうと
うひも。法文賦の方神とつぐふやうと忙杉〳〵て辭うぐ〳〵
怪〳〵うて茅ふ絃うり。〳〵でもいうでやうんとうう〳〵ゆく
神とむうくてゆうの方あうぶ。女絃のはれうふにうゆし
ふふぐやううつふうとばかくて
とうれてをのとあうんん紅茅ふうう鬱みうりてあ絃と
うんざくにうをてう〳〵出てうれうてうぶ所ぐうもうん
杉ふぐ〳〵小杉のあ茅もあぐうもうまでいはう〳〵ゆれのうん
鼎はふ七言律のうと絃〳〵てゆう〳〵うれうまを文絃

二年の中にてとうりぬきこだいなるこ女も多くとれてその
和顔とうりつくり月もあまたばさらばさてはうきぬ貴門地に有
されうれみれば[illegible]ひぐらしの月に百年ばかりしひとをの
て都の内にて勝もうつくしきれめうり美しもとも百年ぶ
ちぐいさん中にはたらつるなりとくいまだはつ
中ものうためてしたまでうきうしまそ系れ紫英大中
法の書まを秀おどいは連俳のまを人見ハくれてかをとり
しでこのやくしひみをんをあつまをしたをみ蘭の梅の
はうをうみ落つきあひしに弟とかうりぬまばそれが俗女の
でうが伝女をうぐさうもにひうばして孫をこいふのの女と
ようとうくとりうり。貴門とんをあつこうとをむひ。
ひしくをしてをを酒とうをんむ上戸ありやくとうう

まだいさうも解をしをれめもいまバ男の付みつ・まれ[illegible]ゆり堀
川のうりまて家中ばとどうりいひけうをおとめこばさるる
ら決ん[illegible]ひぬ其のう角山良雅しうの作のりとふ
てはお細とくるのけまバとれもひをを鼠山のさうれれをの女ま
あひうりをのうりうくくうひだ中紀を紀忠のふ孫みして。
とれうをあるもおあるといをうり門非の女ありして教くうこ子
とんをうれくみうれもうぐにて出合ーうれもい宝のをたんま
を分に加くとをぐのうこをあうくう一位ハ紀のかくれとる
ひくをくも。酒を力にたのひべうをんをれゆ。子に半ようを男と
まぐうりうをうとたうてたのまんたのといをぐやくうきまを
あくびちいさをれ小ちうとうれてをうくれに入まをてはのをび
をを女の武者浦行ありるぐくうをれうりハ角ものうを用んをを。

矣流あくあるもことしたりけるべし。扨て貴門の出合ハ
酒宴の風流より。拍子にてびうり。浴湯こまづ。あに紙の出張よりうつ
して。浮世にとびうり。浴湯こまづ。あに紙の出張よりうつ
紅の美のうちにて。田舎とゆへも侍うつて。すの事も一たいよりひ
きに世の習ひ。ひきぬまもなれに。あらう。ある時貴門の扇
をたくくとあのうちにれうるんと。海浜より色とど。お軽とりに女
ど。ゆ。る。ハ。ハ。て。ゆ。と。ゆ。ど。ゆ。ど。ゆ。と。ゆ。ど。ゆ。と。ゆ。ど。ゆ。と

しかりとはいへども、貴賤もぞうりせーんとちうめさぐ
とんぢーて、おんせをうらおもてのぶどうでさめをぶあるハ貴
賤ハ私とのぐまれ京たるべきハ年いでんまれたるされとも
うりひあ〜ひあとえてぜをうとれといせまりうりてうび
うりうらうさぐりつ〜ぶとうさにつうるおうりふをと
あてもかとおの〜といてるハ児んまうあんぷたまみち
にてうをぜうのつきあひかうるべきんとうまべかとうみち
けけさんぢ〜一枚あてもぷぐりてうるのまうとうる板みと。
むーのとことばあぐ〜ようるひをー。女のちをも紙ゆ上紙よ
仏神とおうけあてぷれとうるべまえのりあてる。るぶのとみち
あしとしまれたりもんあうあハとうるなうとうまて湖てぐ
きめうしんて貴賤ていとあるて湯りあぷをもあるのふう紙ぐと

和午の神はかうるべしよ

第二　按摩車海うりの紙百匁だて

眼のなれんも。検校勾当ゆきをけ。皮膚の刺ゆ七十三人ゆうく
とうし。都義とう西使人金のれとなの〜。長ゆハ色紙〜の
所ん。とて。取眼ハ所なぐ。ぷうひうて住ゆ取えー眼の
あう出家ぷもまれこもて。うそうんて。学官〜てもうれ度
の行ゆ〜ぷれ林ぐ信心ハ任ぐ信ぐれぐぷ紙ぐ
みぐりにぐ〜ゆあるのるに紙小木深ゆう。玄平ていうう盲ん
にぐんありとうのうぐ。検校のぐ貴ぐじとうあまに始
うりぐあゆ世ゆ七月ぐ〜ゆんあて〜ぐんて。行ぐ発義に始
まれとハいとれぐ紙ぐの紙ぐの場とい一ゆぷぐうる
計鶴ん西に仲ゆ〜て。ぐ使もつ色紙もちろん十四紙一紙ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんのうめといへども。それよりはるかの方とも。こゝにあるもとこゝに
下ニ星の二つありおのをのて六星の角とかはる。三十六十二星に
いたるをば。よれどもおのをのそれぞれ。もろ〳〵はかり六十二星にて。
世六所。人万三千五六ちりはばさ〳〵とあるべしとのゝ明り。
富士とらんのうての尚ら。うの〳〵に清万九とのゝのつぐ〳〵に富士
清万はてさとてきさりうゆ〳〵れ穂が宛ともも〳〵孫はあんきはえ
ぐ〳〵とそれかの〳〵ひ〳〵さ。耳えて鼻はたちぶんあゆくを
横てん酒よつく拍をひゞん。さく〳〵もたり〳〵ありたどれら伽と
始てとこもちつ〳〵もよびつ〳〵もゝたかみ小家一けんのあ〳〵ちり。
一子作ナ命もちゆ十七歳みたり〳〵家一学宮にのゞ〳〵ぶ物
とんの扇とゝにまんで書拍と覚さを。入身とつゞけ。六七年
の間ゆ作ナ命ありとれ七学醫とあり。面小酒色に。去一ゝと

うあ。天坂の世とむ〳〵えさあこさ〳〵とう。服ゆめてぶろ〳〵てもある
しのゆにう〳〵れとう〳〵みゞはて〳〵ねと業伴とさ〳〵匹。人のゝぶと
ちう〳〵けさ拍〳〵りてあろ〳〵たくてれでこゝとゝうりを礼とう
とあ。ゝぶて今時の醫ん学宮あ。ゝバさ〳〵ぶはちゝねさ。ひゆく
とんあゝゝバうゝ的のあうゝりゝ拍ゆ。ゝとう。ねやのすゝ
ゆハうゆのり拍にのり。むゝ毋く〳〵やの男ぶうゝ〳〵つれてあるく。
うの女あんゝまの酒中酒ゆゆハおゝりゝけぬゝうゝう。儒ゝ編
ゆれ小袖。ゝだとり。ゝ実ゝんのれ〳〵あゝもゝ〳〵服の肉のゝとん
てゝ拍ゝ拍ゆ。ゝ。ゝ舌ゆのゝ〳〵れ。ゝて豆腐のゝ〳〵にゝり
うゝ業とゝうとび。ゝ大ゝゝゝて本香丸ゝゝのゝ〳〵ぞゝの〳〵二十包
ゆもゝもて。独膳寿妙丸とゝうゝつけ。女婿大切れ丸ゝゝて
ゝゝ八。ゝまのゆの若ゝゝそ。ゝ人ゝ和別とゝひゝ。ゝて痛ゝゝり。

平胃散の粉薬と称ふん祖唐人参の丸金
散してたるに耳垂のあまりと云ふ味ひん考とんぢて礼を
氣とるるなど。鍋のくらも伝んぐ〜ゆるべ〜。実ぶりて
せ〜もろ〜の医書ぶつまを唐人屋伝ゆ〜ごろやぶれろうゆる人
ぎろまて。作す帝俗医めーて。ぶひのみ薬れとるあぶぶとり心
ぐ〜療法ゆゆ。大長のあさとつて色とうんとあ。ゆて。ゆどふ
しくとを祝ふ。毒り医者ゆて。たーうるゆとうんるよりたいこ赤
社治寿てれろ〜ゆりれちむよりハたうり出ぐうるく。ま大ゆて
のこたまね系やゆ〜ぶ。お出と祝ぶ。ゆるゆ。ゆ。ゆ。ゆ。棚とつて極の
作とまろぐ〜。母のゆ帝り。ぶいこゆ〜て妙すとつひるぶ。
ふうくゆとゆげこぶゆ。ぐ〜にたゆ意〜ても女人ぶ嫁とゆんで
あてぐハまのうに血とつ〜ひてのんぐぶとらゆとてさりこく

ゆ。ぶうけとおいてうぎげんゆ。ぬみしゆ〜ひとぶ。ぶの。ゆ。ちぶ
ゆて。汁ゆぶこいてうゆぶ。ぶ〜ぶ。ぶ。ぶ。

ゆ〜ぶつと紙〜くむけもと〜代〜の海〜しゐでゝ行ゆハ枝ゞる
でありうれ毋ハるゑゝんのひとゝあゞんびゞとのまゝもびゝてゆゞは大
紙し贅いゝゝゝ年〜ゝつけ乃にゝハさゝゝゝれゝん毋ゆすれくのふ
ゝゑとあげゝつゞのゝゝりしゝ小神ゝんゞゝふゞゝんもゝゝゝびゞゝう
月とゝ〜〜ゝゝゝげ松よにちゝさゝゝゝゝ海ゝゝゝゝ

[illegible]ものにうじが出て怪しき事ありしかば母にうんとせるあんぜうの後
[illegible]ものもなく事なりしかば

第三　母に仕へしかしこき女節

[illegible]の笑ひ[illegible]のそなたは知らぬとも[illegible]たゆめあるな
大[illegible]のんあれもそなたに[illegible]て。笑ひ[illegible]に寄せられひ[illegible]
事。[illegible]にくらまして[illegible]安節に引[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ

と。親家に母あり。ぬ仙このちくに見ひ。ちまと一ぢんぞ祝さ。そな
にあり。双六盃とそりよせ。ぞ。ちこの月ぬうくとぐれてたんじゃ
ちさられたぞ。ちうでは。ぜ。ぞ。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けすゝぎやはと。人みそらを。こうこ[illegible]
ど。[illegible]ゝ。[illegible]ゝ。[illegible]ゝ

[illegible]

上ふくろのもの[illegible]

[illegible]

てのむとさ[illegible]

[illegible]

ありて間間[illegible]

出ぬさ[illegible]

[illegible]

久[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

巻之二終